

## 第2回 那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境回復モニタリング委員会 議事概要

1. 日 時：平成26年3月7日（金）14：00～16：00
2. 場 所：阿南プラザホテル 2階 大ホール（鶴の間）
3. 出席委員：
  - 湯城 豊勝 委員長（阿南工業高等専門学校副校長）
  - 乾 隆帝 委員（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部特別研究員）
  - 大田 直友 委員（阿南工業高等専門学校建設システム工学科准教授）
  - 河口 洋一 委員（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部准教授）
  - 木下 覺 委員（徳島県植物研究会会長）
  - 佐藤 陽一 委員（徳島県立博物館自然課長）
  - 森本 康滋 委員（徳島県自然保護協会会長）
4. 配付資料：
  - 資料-1 議事次第
  - 資料-2 配席表
  - 資料-3 委員会規約
  - 資料-4 那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境回復モニタリング委員会 資料
5. 議 事：
  - (1)地震津波対策事業について
  - (2)環境モニタリング調査について
  - (3)環境保全に向けた取り組みについて
  - (4)今後のスケジュール

6. 議事要旨：

(1) 地震津波対策事業について

①特に意見はなし

(2) 環境モニタリング調査について

①ヒロクチカノコガイやクリイロコミミガイ等生息環境としてヨシ原を必要とする種も多く確認されていることから、干潟創出の次の目標としてヨシ原の再生を行うことによって、多くの生物の回復が期待できる。ヨシ原は流速も遅くなり、シルトの蓄積を促進すると考えられる。そういった面からも良いと思われる。

②底生魚類の指標種（アベハゼ等）については、底質の悪化・嫌気化の指標とする場合、単独ではなく魚類全体の組み合わせの変化をみて評価を行う必要がある。

③ヒロクチカノコガイとカワザンショウガイ類はよく似た環境に生息していると思われる。カワザンショウガイは指標種に含めないが、環境回復状況のとりまとめにおいては、委員の助言をいただきながら整理を行う。

④シオマネキの保全に関しては、幼生～成体まで様々な世代が生息できる環境を創ることが重要である。シオマネキが保全されることにより、フトヘナタリ等の何種類かも一緒に帰って来ると思われる。

⑤シオマネキ等の調査結果と底質・地形等の関係について、総合的にわかりやすくまとめた資料を作成してほしい。

(3) 環境保全に向けた取り組みについて

①代償地2の創出について、よく検討し非常に丁寧に実施できているので、期待が持てる。

②代償地1の順応的管理（手直し）については、資料-4の通りシルトの流出を止めるため、袋詰め玉石とシートを設置し、段差をつける方法で了承された。

③上流側ワンドの根固めブロック施工時の掘削土砂が水際に仮置きされており、ワンド内への泥の流入が懸念されるため、配慮してもらいたい。

(4) 今後のスケジュール

①藻類量調査について、新たに創出した箇所の餌の量を把握する必要があると思われるため、今年度よりは地点数を減らしてよいので来年度も実施してほしい。

②今後工事区間で新たにハマサジ等の重要な植物が確認されたり、市民からの通報があった場合には、移植等の配慮をお願いしたい。

以上の議事を踏まえ、今年度のモニタリング調査結果及び環境保全に向けた取組み内容、来年度のモニタリング調査計画及びスケジュールは了承された。

以 上